

風流踊りの音楽学的研究 (2)

——土山町の太鼓踊り II (踊り歌の構成) ——

梁 島 章 子

A Musicological Study of the *Furyū-odori* (2)

——*Taiko-odori* in Tsuchiyama-cho II (Structure of Dance-songs)——

Takako YANASHIMA

Received May 9, 1990

抄 録：本稿は、前稿『土山町の太鼓踊り I』で検討された、土山太鼓踊りの「一連の踊り歌」にみられる6つの部分の機能を土台として、踊り歌の導入（踊りを呼び出す）部分、中心（踊る）部分、終結（踊りを終止する）部分の構成上の特徴について考察することを目的とした。その結果、土山太鼓踊りの踊り歌の構成は、バラエティーに富んでいた。すなわち、導入部分の歌詞に、3つの系統があり、中心部分の歌と太鼓の奏され方に、3種のスタイルがあり、また終結部分の終止の仕方に、2種の方法があった。次の機会には、こうした異なったスタイルの共存する姿が、太鼓踊りの典型的姿なのか、あるいは、系統の異なる踊り歌が伝播によって定着したのかを、音楽的検討を行うことによって明らかにしてゆきたい。

索引語：太鼓踊り、踊り歌、構成と機能、風流踊り歌、民俗音楽

Abstract: This is the study based on the six functions of “a series of several kinds of dances” of *Taiko-odori* in Tsuchiyama-cho, which was discussed in my previous report “*Taiko-odori* in Tsuchiyama-cho I”. This time, I focussed on the three parts of the structure of the dance-songs: the first part is an introduction of the main dances, the second is the dances themselves and the third is a completion of the dances.

The structure of the dance-songs is various: ① the words in the first part have three styles, ② the song and the drum in the second part have three styles, and ③ the method of finishing in the third part has two styles.

Next time, by studying this subject musicologically more, I would like to explain the reasons why there are different styles which exist together in *Taiko-odori*. The two possible reasons of which I can think right now are as follows:

① *Taiko-odori* has had different styles which exist together from the beginning, and ② different styles of the dance-songs have become established in the process of propagation.

Key Words: *Taiko-odori*, dance-song, structure and function, *Furyū-odori-uta*, folk music

はじめに

本研究は、滋賀県甲賀郡土山町の4つの地区に伝承されてきた太鼓踊りの全体に注目して、土山町4地区というひとまとまりの中で伝承されてきた芸能の姿および太鼓踊りという同種の芸能の姿の中で、風流踊り歌の音楽的側面からの検討を目的として始められた。先の『風流踊りの音楽学的研究—土山町の太鼓踊りⅠ（踊りの構成）—』¹⁾（以下、前稿）では、風流踊り歌の音楽学的研究のための第一段階として、土山町に伝わる太鼓踊りの、踊り全体の構成について、音楽的視点から検討した。その結果、土山町4地区（山女原、黒川、黒滝、青土）の太鼓踊りで歌われる一連の踊り歌は、次に示すように、前段階と後段階に分けられ、さらに、機能の異なる6つの部分に分けられることを明らかにした。

- 前段階 i 移動の機能を持つ部分
- ii 踊りの場への入場の機能を持つ部分
- iii 踊りの場をほめ、きよめる機能を持つ部分
- 後段階 iv 導入部分 中心となる踊りを呼び出す機能を持つ部分
- v 中心部分 踊る機能を持つ部分
- vi 終結部分 踊りを終止する機能を持つ部分

風流踊り歌には、地面上で踊られるものと舞台の上で踊られるものとあるが、後者には歌舞伎舞踊の影響もあり、両者の踊り曲の構成には違いがあるといわれている²⁾。そこで、本研究は、上記の異なる機能を考慮しながら、前者すなわち地面上で踊られる風流踊りとしての土山太鼓踊りの、後段階で歌われる各踊り歌の構成の特徴を明らかにすることを目的としている。

なお、本研究のための資料は、前稿と同様、次の2冊の報告書と報告書のための調査の録音・VTRテープによっている³⁾。

土山町教育委員会編『土山の太鼓踊り』1987

土山町教育委員会編『青土の太鼓踊り』1988

1. 土山太鼓踊りの踊り歌の構成

本章では、太鼓踊りの各踊り歌の、構成上の特徴を明らかにするために、まず、踊り歌の導入、中心、終結の部分ごとに整理分析を行い、次に、それらを総合することで、踊り歌の構成上の特徴を考察したいと思う。

1) 導入部分（中心となる踊りを呼び出す部分）の構成

前稿で、中心となる踊りを呼び出す機能を持つ部分（以下、「呼び出し歌」）を導入部分と名付け、青土地区の太鼓踊りの例を示したが、この青土の「呼び出し歌」と同じ性格のものは、山女原、黒川、黒滝の各地区でも歌われており、黒川の下組では「馬場入りの短いもの」ともいわれている。この「馬場入りの短いもの」という意味は、黒川の下組には、＜神楽踊り＞の前に奏される踊りの場をほめ、きよめるための独立曲＜馬場入り＞があり、他の踊りは、その＜馬場入り＞の最後の太鼓の一部から始まり、続いて呼び出しの歌詞が歌われるためと思われる⁴⁾。

表1は、各踊り歌のはじめに歌われる「呼び出し歌」としての性格のものを地区ごとに示し、さ

らに、表の下に示した分類基準によって、それらを歌詞の系統に分類したものである。

この表1によれば、山女原、黒川、黒滝では、＜大順役、小順役＞の「ジンヤク」踊りとそれ以外の踊りで、呼び出し歌の歌詞や音楽が異なるのに対して、青土では、踊りが1曲だけ踊られるときと2曲以上踊られるときで多少の差があるものの、すべての踊りに同じ呼び出しの歌詞や音楽

表1 土山町4地区の呼び出し部分の歌詞の系統

伝承地	踊り歌とその呼び出し部分の歌詞の構成	分類番号
山女原	・「大順役以外」の踊り 「〇〇〇踊りを おどろよおどろよ」	Aa
	・＜大順役＞ 「みないちように おならべやんで 大順役踊りをひと踊り」	Ba
黒川	・下組の＜大黒踊り＞ ＜馬場入り＞の太鼓の一部＋「おどろやおどろや 〇〇〇踊りをおどろや」	Ac
	・下組の＜大順役＞ ⁵⁾ 太鼓の拍子＋「みないちようによう おならびあれ 順役踊りをひと踊り」	Ba
	・上組の＜大順役＞ ⁵⁾ 太鼓の拍子＋「みないちようによ おならびあんれ 順役踊りをひと踊り」	Ba
	・下組の＜小順役＞ ⁵⁾ 太鼓の拍子＋「かえせとおしゃるに かえそまで かえそまで」	C
	・上組の＜小順役＞ ⁵⁾ 太鼓の拍子＋「かいせとおしゃんば かいそまで かいそまで」	C
黒滝	・「大順役以外」の踊り 「おどろ 〇〇〇踊りを おどろおどろ」	Ab
	・＜大順役踊り＞ 「みないちに おならびあ 順役踊りをひと踊り」	Ba
青土	・1曲のとき 「みないちように ならみよれ」＋「〇〇〇踊りを しと踊り 〇〇〇踊りを しと踊り」	Bb
	・2曲以上のときの2曲目以降 「〇〇〇踊りを しと踊り 〇〇〇踊りを しと踊り」	B'b
	・＜大神学踊り＞ 「大神学踊りを しと踊り 大神学踊りを しと踊り」	B'b
	・＜小神学踊り＞ 「小神学踊りを しと踊り 小神学踊りを しと踊り＋かいそんと・・・かいそまわり」	B'bC
歌詞の系統による分類の基準 A：「〇〇〇踊りを踊ろう」という意味を歌うもの Aa：「〇〇〇踊りを おどろよおどろよ」 Ab：「おどろ 〇〇〇踊りを おどろおどろ」 Ac：「おどろやおどろや 〇〇〇踊りをおどろや」 B：「みないち・・・＋〇〇〇踊りをひと踊り」と歌うもの Ba：「みないち・・・＋〇〇〇踊りをひと踊り」 Bb：「みないち・・・」＋「〇〇〇踊りをしと踊り（2回）」 B'b：Bbの変形で、後半の「〇〇〇踊りをしと踊り（2回）」のみを歌うもの C：「かえせと（あるいは、かいそんと）・・・かえ（い）そまで（あるいは、かいそまわり）」 の歌詞を持つもの		

が用いられている。すなわち、山女原、黒川、黒滝では、「ジンヤク以外」は、「○○○踊りを踊ろう」という意味の歌詞内容が歌われるのに対し、「ジンヤク」は「みないち・・・」のような他と異なった歌詞が歌われる。一方の青土では、他の3地区で例外的に「ジンヤク」にのみ歌われた歌詞「みないち・・・」が全踊り曲に使われ、その上、「○○○踊りを踊ろう」の内容も「○○○踊りをしと踊り」という歌詞で歌われるなど、いくつかの違いが見られる。

なお、「ジンヤク」の形式の特殊性については、しばしば取り上げられており、前稿でも紹介した樋口氏の論文「風流踊り歌の形式」⁶⁾にも詳しい研究がある。これによると、「ジンヤク」の導入部の歌詞は、「大ジンヤク」が「おどりが参る・・・・・・こがねし草が足にからまく」、「小ジンヤク」が「京からくだる・・・・・・うちならび じゅんやくや」となっている。これらの歌詞は、土山の各地区では上にあげた導入部分（「呼び出し歌」）に続いて歌われているが、前稿では、各地区の踊り歌の「ジンヤク以外」の曲との関係もあわせて考慮し、「○○○踊りを踊ろう」という意味の歌詞の部分のみを導入部分とみなし、それに続く部分は、中心部分と考えたからである。

表2 土山町4地区の導入部分の歌詞の系統
(分類記号は、表1による)

伝承地	踊り歌	「ジンヤク以外」	「大ジンヤク」	「小ジンヤク」
山女原		Aa	Ba	
黒川 (下組)		Ac	Ba	C
(上組)			Ba	C
黒滝		Ab	Ba	
青土		Bb または B'b	B'b	B'bC

表2は、土山太鼓踊りの各踊り歌の導入部分で歌われる歌詞の系統を明確にするために、表1を地区および曲種ごとに整理したものである。

表1および表2から、土山太鼓踊りの踊り歌の、導入部分の構成は、歌詞の系統によって次のようにまとめられる。

- i 導入部分の歌詞の系統は、青土を除いて「大ジンヤク」、「小ジンヤク」、「ジンヤク以外」の踊りで異なっており、3系統あると考えられる。
- ii 「小ジンヤク」は資料が少ないものの、青土が独自の導入の歌詞の後に、黒川（上、下組）と同じC系統を歌うことから、「大・小ジンヤク」はそれぞれ固有の導入の歌詞を持つことが考えられる。
- iii 山女原、黒川、黒滝の3地区は、「小ジンヤク」を除いて、「ジンヤク以外」がA系統、「大ジンヤク」がB系統と、よく似た導入部分を持つが、青土は全部B系統で歌い、地区差が見られる。
- iv 青土では、歌詞の系統に限っていえば、他の地区で「大ジンヤク」に用いられている導入の歌詞「みないち・・・」が、「大ジンヤク以外」の踊りで用いられている。青土の「大ジンヤク」は、前稿で見たように、2曲以上踊られる構成の中の2曲目に踊られるところから、他地区で「大ジンヤク」に肝心と思われる「みないち・・・」の歌詞が省かれてしまっているものと思われる。
- v もし「みないち・・・」の歌詞が「大ジンヤク」に固有な歌詞であることを、土山以外の「大

ジンヤク」で普遍化できれば、青土の用い方は、伝播の際の変形といえることになる。

- vi 「小ジンヤク」に関して、全体に独自の用法の多い青土の B'b を例外と考えれば、「小ジンヤク」の導入部分は、導入に典型的な「踊ろう・ひと踊り」などの歌詞を持たないことになり、常にその特殊性をいわれてきた「大ジンヤク」よりもさらに著しい形態を持つことになる。

2) 中心部分の構成

次に、踊り歌の中心部分の構成についてみて行くが、中心部分には、前稿⁷⁾の表 5、表 6-1、

表 3 土山町 4 地区の各踊り歌の中心部分の構成の骨組みと踊り歌の例

骨組 系統	中心部分の構成と踊り歌の例
I	はじめの短い太鼓＋うたの繰り返し＋終結の太鼓 [短い太鼓－歌－歌－・・・－歌－終結の太鼓] (例) 山女原－津島踊り，黒滝－天王踊り
II	はじめの短い太鼓＋歌と太鼓の比較的単純な繰り返し＋終結の太鼓 [短い太鼓－歌－太鼓（黒川ではこの太鼓を「フシ」と呼んでいる。以下、歌と歌の間に繰り返される太鼓を「節拍子」と呼ぶ ⁸⁾ ）－歌－太鼓・・・－歌－終結の太鼓] (例) 山女原－神楽踊り，宝踊り 青土－一世の中踊り，神事踊り，御舟踊り，御殿踊り ⁹⁾
III	IIと同じ繰り返し＋終結の歌＋終結の太鼓 [短い太鼓－歌－太鼓－歌－太鼓・・・－終結の歌－終結の太鼓] (例) 山女原－里の踊り，お寺踊り 黒川－下組の大黒踊り，神楽踊り ¹⁰⁾ 黒滝－神楽踊り，山神踊り，京嶋踊り，巻狩り踊り，仙松踊り，大国踊り 青土－御寺踊り，大黒踊り ⁹⁾
IV	IIIの変形で系統の異なる歌と太鼓の節拍子が混ざっているもの [IV 1. 歌 1－太鼓－歌 2－太鼓－歌 1－太鼓－終結の歌－終結の太鼓] (例) 青土－家方踊り [IV 2. 太鼓－歌 1－太鼓 1－歌 2－太鼓 2－歌 2－太鼓 2－終結の歌－終結の太鼓] (例) 黒滝－住吉踊り，お寺踊り
V	一部に繰り返しを含む複雑な構成＋終結の歌＋終結の太鼓 [歌 1－太鼓 1－歌 2－太鼓 2－歌 3－太鼓 3・・・－歌 N（終結の歌詞）－終結の太鼓] (例) 山女原－大順役， 黒川（下組）－大順役，小順役 ¹¹⁾ 黒川（上組）－大順役，小順役 ¹¹⁾ 黒滝－大順役 青土－大神学踊り，小神学踊り
構成の系統による分類の基準	
I：短い太鼓の拍子の後、歌のみが繰り返され（最後に終わりを意味する歌詞がある）、最後に終結のための太鼓の拍子が続く構成	
II：短い太鼓の拍子の後、歌と太鼓の節拍子の同じパターンが比較的単純に繰り返され（最後に終わりを意味する歌詞がある）、最後に終結のための太鼓の拍子が続く構成	
III：IIの後に、終結のための歌と太鼓の拍子が続く構成	
IV：IIIの変形で系統の異なる歌と太鼓の節拍子が続く構成	
V：一部に繰り返しを含むが歌も太鼓の拍子も異なったパターンが連なる複雑な構成	

表4 土山町4地区の中心部分の構成の系統
(分類記号は、表3による)

伝承地 \ 踊り歌	「ジンヤク以外」	「ジンヤク」
山女原	I II III	V
黒川(下組)	III	V
黒川(上組)		V
黒滝	I III IV	V
青土	II III IV	V

表6-2で青土の例についてまとめたように、終結の性格が含まれるものもあり、このことは青土以外の地区でもみられることなので、終結部分の性格も含めてみて行くことにした。

踊りの中心部分の構成は、表3の下に示したように、大きく五通りに分類できる。表3は、4地区の踊り歌の構成をみるために、五通りの構成の系統の骨組みを簡略化して示し、さらに、4地区の各踊り歌をそれぞれの骨組みに分類したものである。

また表4は、各踊り歌の中心部分の構成の系統を明確にするために、表3を地区および曲種ごとに、整理したものである。

表3および表4から、土山太鼓踊りの踊り歌の、中心部分の特徴は次のようにまとめられる。

- i 細かく比較すると相違点はあるが、歌と太鼓の拍子が交互に奏される曲が多い(II・III・IV・V)。
- ii 終結の仕方を考えなければ、IIとIIIは同じ系統といえる。
- iii 終結の仕方考えれば、IとII、IIIとIVは同じ終結の方法であり、同じ系統といえる。
- iv 歌と太鼓が交互に奏されない曲(Iの系統)は、現在奉納されている踊りの中では、山女原の<津島踊り>、黒滝の<天王踊り>の2曲だけで全体からすると少なく、例外的な曲と考えられる。
- v Vに分類されるものは「ジンヤク」だけであり、中心部分でも「ジンヤク」が特徴的な踊りであることがわかる。
- vi 同じ地区の踊り歌の中に、「ジンヤク」を別にしても、異なった構成が見られることから、同じ地区の中に異なる系統の踊りが共存していることが考えられる。
- vii 数は少ないが、IVのような系統の異なる歌と節拍子が混ざった構成が見られることも、異なる系統の踊りが共存した結果ではないかと思われる。
- viii この分類だけでは、4地区の特徴の比較は簡単にはできないが、黒滝の踊り歌は<天王踊り>を除いて、全部が終結の歌を持つ系統(III・IV)である。また、青土の踊り歌は、IIとIII・IVのように異なる系統の構成を持つが、構成だけでなく、旋律の系統も異なっている¹²⁾。

以上、中心部分の構成の特徴をまとめたが、次項では、さらに終結部分の構成の系統について、詳しく見て行きたい。なお、「異なる系統の共存」については構成からだけでは解明できない。次の機会に、旋律の系統も含めて、音楽的要素からの考察を行い、はっきりさせたいと思う。

3) 終結部分の構成

終結部分の構成については、中心部分と切り離せない点についてのみ、前節で考察したが、本節では、終結部分の構成の系統をみるためにさらに詳しく検討したいと思う。先にみたように、終結部分には、終結句として明確に分けられる部分のあるものとなないものがあり、明確な終結句のな

表5 土山町4地区の各踊り歌の終結部分の歌詞の系統

系 統	踊り歌の終結部分の歌詞の系統	中心部分の 分類番号
X	明確な「終結の歌」が歌われるもの	
	山女原 里の踊り 「里の踊りはこれやまでこれやまで」	III
	お寺踊り 「お寺踊りはこれやまでこれやまで」	III
	黒川(下組) 神楽踊り 「御神楽踊りはこれまでこれまで」 ¹³⁾	III
	(下組) 大黒踊り 「大黒踊りはこれまでこれまで」 ¹⁴⁾	III
	黒 滝 神楽踊り 「神楽踊りはこれまでよこれまでよ」	III
	山神踊り 「山神踊りはこれまでよこれまでよ」	III
	京嶋踊り 「京嶋踊りはこれまでよこれまでよ」	III
	巻狩踊り 「巻狩踊りはこれまでよこれまでよ」	III
	仙松踊り 「仙松踊りはこれまでよこれまでよ」	III
	大国踊り 「大国踊りはこれまでよこれまでよ」	III
	住吉踊り 「住吉踊りはこれまでよこれまでよ」	IV
	お寺踊り 「お寺踊りはこれまでよこれまでよ」	IV
	青 土 御寺踊り 「御寺踊りはこれまでではこれまで」	III
	大黒踊り 「大黒踊りはこれまでではこれまで」	III
	家方踊り 「家方踊りはこれまでではこれまで」	IV
Y	終結の歌の代わりに、歌の最後に「終わりを意味する歌詞」があるもの	
Ya	山女原 津島踊り 「津島踊りはこれやまで津島踊りはこれやまで」	I
	青 土 世の中踊り 「世の中踊りはこれまでよ世の中踊りはこれまでよ」	II
	神事踊り 「神事踊りはこれまでよ神事踊りはこれまでよ」	II
	御舟踊り 「御舟踊りはこれまでよ御舟踊りはこれまでよ」	II
	御殿踊り 「御殿踊りはこれまでよ御殿踊りはこれまでよ」	II
Ya'	黒 滝 天王踊り 「作りし小歌はこれまでよこれまでよ」	I
Yb	山女原 神楽踊り 「いざさら下向申すべしいざさら下向申すべし」	II
Yc	山女原 宝踊り 「踊る若衆はいざ帰ろ 踊る若衆はいざ帰ろ」	II
Yd	山女原 大順役「お暇申していざ帰ろう」	V
	黒川(下組) 大順役「お暇申していざ帰ろ」 ¹⁵⁾	V
	(上組) 大順役「お暇申していざ帰ろ」 ¹⁵⁾	V
	黒 滝 大順役「お暇申していざ帰ろう」	V
	青 土 大神学踊り「お暇申してみな帰ろ」	V
Ye	黒川(下組) 小順役「ささらをしゃんとすりこめよ」 ¹⁵⁾	V
	(上組) 小順役「ささらをしゃんとすりこめよ」 ¹⁵⁾	V
	青 土 小神学踊り「ささらをしゃんとすりこめよ」	V
終結部分の系統の分類の基準		
X: 終結部分として明確に分けられる歌の部分があるもの		
Y: 終結部分として明確に分けられる歌の部分がないもの		
a: 「これまで」の歌詞を歌うもの		
b: 「下向申すべし」の歌詞を歌うもの		
c: 「いざ帰ろ」の歌詞を2回歌うもの		
d: 「いざ帰ろ」あるいは「みな帰ろ」の歌詞を歌うもの		
e: 「すりこめよ」の歌詞を歌うもの		

いものには、その代わりとして、終結を意味する歌詞が中心部分の最後に歌われていた。

表5は、終結部分の歌詞を系統により分類して地区ごとにまとめ、さらにその歌詞と中心部分の構成との関係を見るために、前節で用いた中心部分の分類記号(表3, 表4参照)を示したものである。なお、終結部分の歌詞の分類の基準は、表5の下に示した。

表5から、土山太鼓踊りの、終結部分の歌詞については次のようにまとめられる。

- i 明確な「終結の歌」の歌詞のスタイル(X)は、すべての地区・すべての踊り歌で同じである。すなわち、「○○○踊りはこれまでよこれまでよ」に似た歌詞である。
- ii 明確な終結の歌を持たず、最後の歌詞で終わりの意味を歌うスタイル(Y)は、わずかに例外があるが、「ジンヤク以外」の曲ではほとんど同じ歌詞のスタイル(Ya)である。すなわち、「○○○踊りはこれまでよ ○○○踊りはこれまでよ」のように同じ歌詞を2回繰り返すものである。わずかの例外は黒滝の<天王踊り>(Ya')で、明確な終結の歌(X)の歌詞と同じである。
- iii 黒滝では、ほとんどがXのスタイルで、例外であるYに分類される<天王踊り>(Ya')もXと同じ歌詞のスタイルである。
- iv 山女原と青土では、XとYの両方のスタイルが見られるが、山女原のYの方には、<神楽踊り、宝踊り>のように、終わりを意味する歌詞ではあるが他とは異なったものが見られる。すなわち「いざさら下向申すべし(2回)」(Yb)、「踊る若衆はいざ帰ろ(2回)」(Yc)である。
- v 黒川については、資料が少ないのでわからない。
- vi 「ジンヤク」はどの地区もほとんど同じ歌詞のスタイルである。そして、他の踊り曲と比較すると、終結部分もやはり特殊である。
- vii 特殊な「ジンヤク」、中でも「小ジンヤク」は、導入部分の特殊性に加えて、終結部分でも他と著しく異なるスタイルを示している。すなわち「大ジンヤク」には、他の踊り歌のように終結に典型的なものではないにしても、「いざ帰ろう」のような踊りの終わりを意味する歌があるが、「小ジンヤク」には、そのような終結を意味する歌詞が見られず、「ささらをしゃんとすりこめよ」という歌詞で終わっている。

4) 各踊り歌の構成

前節までに、各踊り歌の構成を導入、中心、終結の3つの部分に分けて考察してきたが、この節では3つの部分を総合することで、各踊り歌の構成を考えてみたい。

表6は、導入、中心、終結のそれぞれの部分の関係を検討するために、各部分の系統を分類記号によって示したものである。なお、分類記号は、前節1), 2), 3)で分析したものである。

表6から明らかになった各踊り歌の構成は、次のようにまとめられる。

- i 中心部分からわかるように、各地区の踊り歌には、「ジンヤク」のような特殊なものを除いても、いくつかの系統の歌が歌われている。このことは、終結部分の歌詞の系統からも明らかである。
- ii 導入部分には、「地区ごとに選ばれた(きめられた)歌(歌詞)」が歌われるが、終結部分にはそのような特別にきめられた歌はない。
- iii 終結部分に地区ごとにきめられた特別の歌がないことから、歌いはじめである導入部分には独自のものを使いやすいが、終結部分には、中心部分との関係で、独自のものを使いにくいことが窺える。
- iv 4地区を比較すると、導入部分で、青土の歌が他の3地区と著しく異なっている。

- v 「ジンヤク」は、構成上は地区による差はわずかで、他の踊り歌の地区差を考えれば、非常に類似性を示しているといえる。

表6 土山太鼓踊りの各踊り歌の導入、中心、終結部分の系統関係
(分類記号は、表1、2、3による)

地区と踊り歌	構成部分	導入部分	中心部分	終結部分
山女原	ジンヤク以外	Aa	I	Ya
			II	Yb・Yc
			III	X
	大ジンヤク	Ba	V	Yd
黒川(下組)	小ジンヤク	— ¹⁶⁾	(V) ¹⁷⁾	—
	ジンヤク以外	Ac	III	X
			V	Yd
			V	Ye
黒滝	ジンヤク以外	Ab	I	Ya'
			III	X
			IV	X
	大ジンヤク	Ba	V	Yd
青土	小ジンヤク	—	(V) ¹⁷⁾	—
	ジンヤク以外	Bb・B'b	II	Ya
			III	X
			IV	X
	大ジンヤク	B'b	V	Yd
	小ジンヤク	B'bC	V	Ye

2. 土山太鼓踊りの踊り歌にみられる構成上の特徴

風流踊り歌の1つである太鼓踊り歌の構成の特徴を明らかにするために、土山4地区の太鼓踊りを材料として、考察を進めてきた。まず、前稿で太鼓踊りの全体構成と一連の踊り歌の各部分の機能について、そして本稿の前節までで、その機能の中でも太鼓踊りの「ヤマ」場で奏される、各踊り歌の導入、中心、終結の機能を持つ部分の構成の特徴について、検討してきた。その結果、土山太鼓踊りの踊り歌にみられる構成上の特徴については、次のようにまとめられる。

土山4地区で、現在奉納されている踊り歌の構成は、次に述べるようにバラエティーに富んでいた。

- i 導入部分には、例外もあるが、3つの歌詞の系統があり、「大ジンヤク」、「小ジンヤク」、「ジンヤク以外」の曲では、異なる導入の歌詞が歌われている。
- ii 中心部分については、歌の間に太鼓の拍子が奏されない曲がわずかにあるが、ほとんどが歌と太鼓の節拍子が交互に奏される曲である。歌と太鼓の奏され方には、3つのスタイルがある。すなわち、1つは、同じ系統の、歌と太鼓の節拍子が奏されるもの、2つは、系統の異なる、歌と太鼓の節拍子が混ざって奏されるもの、3つは、一部に繰り返しが含まれるが、次々に異なる、歌や太鼓の節拍子が奏されるものである。

iii 終結部分には、独立した終結の歌を持つものと、独立した歌のかわりに、終わりを意味する歌詞を持つものの、2つの系統がある。独立した歌では、ほとんどが似た歌詞を歌うが、終わりを意味する歌詞を歌う場合には、いくつかの異なった歌詞が使われる。

これまでの、種々の風流踊り歌を題材とした形式の研究では、導入部分と終結部分に関して、「同一の風流踊では、多くの場合、曲目が変わった時も、同じ旋律のA(踊りを呼び出す部分・筆者注)、C(踊りを終止する部分・筆者注)を歌うことが普通となっている」¹⁸⁾といわれているが、土山町の太鼓踊りでは、各地区の踊り歌の導入部分と終結部分に、2種以上の異なったスタイルが歌われていた。こうした異なったスタイルが共存する姿が、いわゆる太鼓踊りの典型的な姿として各地区の太鼓踊りに見られるのか、あるいは、いくつかの地区の踊り歌の伝播によって、系統の異なる踊り歌がレパートリーとして定着して共存という姿になったのか、この段階では決定できない。

なお、音楽的特徴として考えられるものについては、次の研究で扱うこととして、これまで深く追求しなかったが、音頭の歌い方が構成に関係する面もあるので触れておきたい。前稿で青土の太鼓踊りを紹介した際、「歌出し」の歌い方に2種あることを述べた。すなわち、「歌出し」が2つに分かれて交互唱をする場合と、一部に繰り返すフレーズが含まれていても交互唱をしない場合(以下、斉唱とする)である。青土では、この2種の歌い方は、次に示すように、踊り歌によってはっきりと区別されている。交互唱で歌われる<世の中、神事、御舟、御殿踊り>の4曲(斉唱で歌われるのは<大神学、小神学、家方、御寺、大黒踊り>の5曲)は、導入と終結部分で、それぞれ[BbあるいはB'b]と[Ya, Yb, Yc (Ya'は除く)]に分類されたように、同じ歌詞を2回繰り返すという構成上の特徴を持つ。この詞型は、交互唱しやすいものである。そこで、この詞型に注目して、中心部分との関係を見るために作ったのが表7である。他の地区の同じ分類記号を持つものも含めてみた。

表7から、導入、終結部分の詞型は、明らかに中心部分の構成と関係していることがわかる。すなわち、同じ歌詞を2回繰り返す詞型は、IとIIという特定の終結のための歌がなく、歌の最後に終わりを意味する歌詞が歌われるタイプに結びつくのである。このように、音頭の交互唱、斉唱などの歌い方や詞型なども、踊り歌の構成の特徴に深く関係することも見逃せない。

また、「ジンヤク」の特殊性については、これまでの研究でも、各書でいわれてきたが¹⁹⁾、本研究の分析でも、他の踊り歌に比べて著しい構成の違いがあることがはっきりした。今回の導入および終結部分の歌詞の考察から、特に「小ジンヤク」についていえることは、導入部分の歌詞につきものの「踊ろう」、「ひと踊り」などの歌詞が、「小ジンヤク」にのみ歌われないことから、「小ジンヤク」は他のいずれかの踊り歌に続いて踊られた可能性があるということである。詞章の研究から、「大ジンヤク」と「小ジンヤク」は1対の踊りとして踊られたのではないかとする説²⁰⁾もあるが、考えられないことでもない。なぜならば、細かいことではあるが、「大ジンヤク」の導入部分の歌詞に関して、黒川の上組と下組、そして黒滝では、「大ジンヤク」を踊る前であるにもかかわらず

表7 詞型と構成の系統
(分類記号は、表1、3、5による)

伝承地	構成	構成			
		導入部分	終結部分	→	中心部分
青土 山女原		Bb, B'b	Ya	→	II
			Ya	→	I
			Yb, Yc	→	II

らず、「順役踊りを」と歌い、「大」を歌わない、などということもあるからである。すなわち、山女原では「大」を歌っているように聞こえ、また青土は例外が多いので、この両地区は別に考えるとして、黒川の上組、下組と黒滝の3地区で「大ジンヤク」の前にもかかわらず、「大」を歌わないということは、「ジンヤク」は各所に1つだけ存在し、「大、小ジンヤク」は切り離されていなかったのではないかと考えられるからである。「大、小」の意味を「前の部分、後の部分」のように考えられないであろうか。しかし、いずれにしても、土山の「小ジンヤク」だけでは、資料としてあまりにも少ないので、「ジンヤク」の特殊性については、今後資料を加えながら詳しく検討して行きたい。この場合、「ジンヤク」のみの比較ではなく、「大小」1組の踊り歌としての音楽的考察や、各地の全踊り歌の中での「ジンヤク」の位置づけの考察などが必要となろう。

ところで、青土の踊りは、土山4地区の踊りをひとまとまりとして考えると、編成、踊り、それに踊り歌の構成などで、他の3地区の踊りと異なるところが多々あった。青土の踊りは、土山太鼓踊りの調査の際、子どもの加わる踊りで、また、地域的にも他の地区と離れているなどの理由で、他の3地区と別扱いとなった²¹⁾が、その理由はともかくとして、4地区の中で多少系統を異にすることは事実である。

おわりに

総合的な芸能である風流踊りには、歴史をはじめとして、踊り、詞章、音楽などの総合的な観点からの研究の必要性がいわれてきたが、これまでの研究では、踊りや音楽からの研究が少なかった。

本研究は、風流踊り歌の音楽的考察を行うためのステップとして、風流踊りの1つである土山町の太鼓踊りについて、前稿で踊りの構成、本稿で踊り歌の構成を検討してきた。その結果、太鼓踊りの構成上の特徴について、いくつかの指摘を行うことができたが、次の機会には、これらの構成の考察を土台として詳しい音楽的検討を行い、太鼓踊りの音楽的特徴を明らかにしたいと思う。

注

- 1 梁島章子「風流踊りの音楽学的研究—土山町の太鼓踊りⅠ（踊りの構成）—」『京都教育大学 紀要 第75号A』京都教育大学、1989、p.155-166
- 2 山路興造「全国風流踊り歌一覧」『民俗芸能43.44号合併号』民俗芸能の会、p.50
- 3 筆者は、2冊の報告書で、「太鼓踊りの音楽」を担当、山女原と青土の踊り歌の採譜を行った。
- 4 1986.4.15録音のテープから
- 5 1986.7.10録音のテープから
- 6 樋口 昭「風流踊歌の形式」『東京音楽大学紀要 第2集』東京音楽大学、1977、p.46-51
- 7 「風流踊りの音楽学的研究—土山町の太鼓踊りⅠ（踊りの構成）—」前掲書、p.161-163
- 8 青盛 透氏が、「風流踊の構造—囃子の位置をめぐる—」『民俗芸能研究 創刊号』民俗芸能学会、1985、p.61で、太鼓踊りの間奏に奏される太鼓の拍子に使われている用語である。なお、歌の伴奏として奏される太鼓の拍子には、「地拍子」を使われている。
- 9 青土の踊りには、はじめの太鼓はつかない。
- 10 黒川の2曲については、採譜からは不明であるが、現行歌詞には終結部分と思われるフレーズがみられ

るので、ここに分類した。『土山の太鼓踊り』土山町教育委員会, 1987, p.36-38

11 1986.7.10の録音テープから

12 梁島章子「太鼓踊りの音楽」『青土の太鼓踊り』前掲書, p.44。青土の踊り歌の旋律は3つの系統に分けられ、第一の系統は<世の中踊り・神事踊り・御舟踊り・御殿踊り>, 第2の系統は<家方踊り・御寺踊り・大黒踊り>, そして第3の系統は<大神学踊り・小神学踊り>であった。

13 『土山の太鼓踊り』前掲書, p.37-38

14 同上書, p.36-37

15 1986.7.10の録音テープから

16 一印は、歌詞資料はあるが、楽譜資料あるいは音資料がないので、はっきりしないことを示す。歌本あるいは備忘録としての歌詞集には、特に導入部分や終結部分が記入されていない場合が多いからである。

17 (V)は、楽譜資料・音資料はないが、歌詞と太鼓の口唱歌から考えられた結果である。『土山の太鼓踊り』前掲書, p.44-45, 50-52

18 樋口 昭「風流踊り歌の形式」前掲書, p.32。樋口氏は踊り歌の形式を、中心となる部分とその前後に加えられた部分に分けて考察されている。これは、前稿で述べた「一連の踊り歌の構成上の機能」でいうと、機能4, 5, 6に当たる。

19 同上書, 青盛 透「風流踊の構造」前掲書, 中村茂子「じんやく考」『芸能の科学10 芸能論考 V』東京文化財研究所芸能部編, 1979など。

20 中村茂子「じんやく考」前掲書。

21 『青土の太鼓踊り』前掲書, p.1